

考える会「ユース」

No.5
2008. 12. 15

発行 宇治小「小中一貫校」を考える会事務局
(連絡先)
宇城久教育会館内
TEL 44-6191

小中一貫校反対署名、10561筆 単独の小学校としての建て替えを



12月10日、皆さんから預かった署名を教育委員会に提出しました。

**何十年にもわたる教育施設の建設は
多くの疑問や反対を押し切って進めるべきではない！**

「宇治小を小中一貫校として立て替える」という宇治市・教育委員会の案に対して、多くの疑問・反対の声があがっています。

この間、新聞紙上で様々な意見が報道されました。私たち「宇治小の『小中一貫校』を考える会」が取り組んだ署名も一万筆を超え、先日、宇治市・教育委員会に提出しました。

私たちの「会」は、学校の先生と保護者・地域住民等をつくられ、何回も学習会を重ねる中で

①宇治小の敷地では、千名以上の小中学生がゆったりと共有したスペースが作れず、無理な計画である。

②単独の小学校としての建て替えて十分であり、「超過大規模校」をつくるというのは、これまでとは違う逆行した動きである。

③小中一貫(教育)校は、十分な施設でもってしても、メリットもデメリットあり、その教育的評価は定まっていない。そんな中で、あえて伝統ある宇治小学校で実施する必要はない。

などの見解をまとめ、署名活動等に入りました。

手探りで不十分な行動でしたが、賛同の広がりに、「声をあげて良かった」と実感しています。「子どもたちが9(6)年間過ごす学校はどうあればいいのか」を今後とも様々な場で話し合っていきたいと考えています。

小中一貫校建設は 決まってはいません

「もう、決まったことだから反対しても」という声をよく聞きます。確かに、設計予算は、決まりましたが、建設予算は2010年2月の議会で最終決定されます。それまでの1年間(2009年度)で変更することは可能です。

<平成17年宇治市学校規模適正化検討懇話会>

学校の適正規模は12~18学級 31学級は過大規模校

<平成26年度小中一貫校>

**9年間も同じ学校では、中一デビューはできない
小中一貫教育(校)はメリットもデメリットも**

宇治市教委は、宇治小を「小中一貫校」とする理由の大きな一つとして「中1ギャップ」をあげています。中学校に進学した際に「教科担任制」になじめないことからくる戸惑いから意欲をなくすことです。確かに、そういう児童もいるでしょうが、反対に9年間も同じ学校で生活するのはどうなのでしょう。小学校から中学校に上がる際に、頑張ろうとす

「中1デビュー」が出来なくなってしまう。また、中1ギャップをさけても、今度は「高1ギャップ」が待っているのです。

このようにメリットもデメリットもある小中一貫(教育)校の教育的検証はまだこれからなのです。

私立の小中一貫校は全国で2校だけ。立命館や同志社は単独校です。

1034名(平成26年度)の学校は

府下最大のマンモス校に!

このまま、宇治小が「小中一貫校」になれば、児童数は千名を越え、クラス数も31学級となります。宇治市で大規模校といわれる木幡中は908名、東宇治中は847名、御蔵山小は950名です。

京都府内でただ一つ千名を越えている太秦小(08年5月1日で1001名)もすでに千名以下となります。

学校適正規模は「12学級~18学級」との答申が出されている中で、大きな逆行です。平成17年3月に「懇話会」が宇治市教委に出した答申の中に

①「過大規模校の場合、登校時や休み時間、行事実施時等において、一時に多数の児童生徒が行動することになるが、集団に馴染めない児童生徒が集団の大きさに対する恐怖感や違和感を感じることもある。また、不登校の児童生徒の学校復帰に困難を伴うことがある」

②「過大規模校の場合は、部活動における体育館やグラウンドの余裕を持ったスペース確保は困難となったり、運動会・体育大会、音楽・学習発表会等の行事も多人数で行うことになることから、児童生徒の一人一人の特性や能力を生かすことや十分な活動を保障することが困難になる場合もある」とあります。

今から、数年前に、はつきりと過大規模校は問題が多いと言っているのです。今から建設する学校を、どうして千名以上のマンモス校にする必要があるのでしょうか。